

## ロゴマークの制定について

日本製紙連合会は、このたびロゴマークを制定いたしましたので、お知らせいたします。

日本製紙連合会では、再生可能資源である木材を原料に、人々の生活に欠かせない紙・板紙製品の安定供給に加え、古くから古紙のリサイクルに取り組み、さらに 1990 年代には地球温暖化問題に対応するため温室効果ガスの排出削減に取り組むなど、業界一丸となって循環型社会・持続可能な社会の構築に努めてまいりました。

近年、環境に配慮した素材に対する社会・市場からの要求が高まる中において、木材という再生可能資源を原料とする紙・板紙製品のサステナブルな素材としての環境優位性が見直されています。加えて、日本の製紙業界では、紙・板紙製造で培った技術を活かしセルローズナノファイバーに代表される木質資源を原料とした新素材開発等に努めています。さらには、業界一丸となり脱炭素社会の実現に向けて、本年 1 月には 2050 年の温室効果ガス排出実質ゼロを目指した「製紙業界—地球温暖化対策長期ビジョン 2050」を策定しています。

ロゴマークは、日本の製紙業界が常に未来志向で活動を展開していくという理念のもと、制定されました。

### 1. ロゴマーク (※)

○メインロゴマーク



○和文ロゴマーク

○英文ロゴマーク



※商標登録出願中

### 2. ロゴマークのコンセプト：「次々と未来のページをめくる」

ロゴマークは 3 枚の紙をモチーフに、製紙産業が未来に向けて次々と新しいページを開いていく様子を表現しています。また、色彩に関しては、美しい地球を意味するブルーと森を意味するグリーンを基調としています。

### 3. ロゴマークに込めた想い

3枚の紙は、伝える・表す（主にグラフィック用紙）、包む・運ぶ（主にパッケージング用紙）、拭く・清める（主に衛生用紙）の3つの機能を表すとともに、「自然との共生」「低炭素社会・循環型社会への貢献」「木質原料を基幹とした新素材開発の可能性」の3つの意味を込めています。